

中国東北地方の近代土木遺産の利活用に関する研究

—长春市浄月潭に焦点をあてて—

日本大学	学生会員	○金	哲錫
日本大学	正会員		堀川 洋子
日本大学	学生会員		鶴岡 智史
日本大学	正会員		伊東 孝

1、はじめに

中国東北地方（旧満州）の近代土木遺産の研究は、中国の近代化を理解する上でひじょうに重要である。

日本人技術者によってつくられた浄月潭ダムは、長春の最初の水道用ダムである。戦後、大きな水道用ダムが造られ、浄月潭ダムは廃ダム（廃止年不詳）になった。水の少ない中国東北地方では、ダム湖の浄月潭が国家重点風景名勝区に指定され、観光地として利活用されている。

本小論では、2005年9月、日中共同調査チームでおこなった浄月潭の文献調査と現地調査の結果について報告する。

2、长春市と浄月潭

長春市の面積は3616km²で、人口は298万人である。

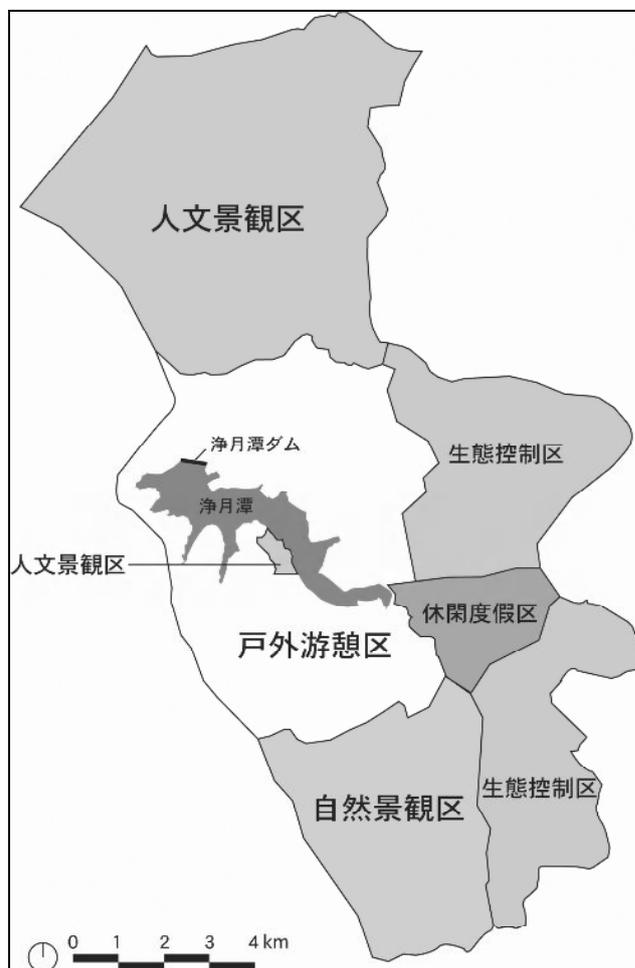
1901年、ロシアが敷設した東清鉄道南満支線の駅が長春に設置された。1905年、日露戦争の後、長春—旅順間の鉄道は日本に譲渡され、長春はロシアの東清鉄道と日本の満鉄の終端駅となった。1907年から長春の満鉄付属地の都市計画がはじまった。1932年から1945年までは満州国の首都建設が続けられた。

長春市は、川が少ない。満州国の首都計画の初期の段階から地下水源の調査をし、深井戸を築造した。しかし、地下水の給水能力には限界があったため、地表水の調査をおこなった結果、水質、水量とコストなどを比較して、長春の東南12kmの腰站という場所にダムを築き、小河台河を堰き止めることにし、現在の浄月潭ダムを造った（台湾の日月潭にあわせた命名と思われる）。工事は、1934年5月に着工され、1936年1月より給水を開始した。1日給水能力は4万m³であった。工費350万円。

3、国家重点風景名勝区

中国の風景名勝区は、国家、省、県の三つのレベルに分けられている。

国家重点風景名勝区は、国務院が公表した重要風景名勝地区である。現在177カ所の国家重点風景名勝区があり、



図—1 浄月潭国家重点風景名勝区の概略図

その中16カ所が世界遺産に登録されている。

4、浄月潭風景名勝区

吉林省では、1988年に“八大部”—浄月潭と松花湖（豊満ダムのダム湖）、2002年に仙景台と防川が国家重点風景名勝区に指定された。4つの国家重点風景名勝区の中で、2つが近代土木遺産を基礎としていることがわかる。

浄月潭風景名勝区は、自然景観区、人文景観区、戸外游憩区、生態制御区と休闲度假区の5つに分けられている。

浄月潭風景名勝区には豊かな自然風景資源がある。浄月潭のダム湖面積は4.6km²、東西4000m、南北1000mであり、

キーワード 中国東北地方 満州 近代土木遺産 浄月潭 利活用

連絡先 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1

電話 047-469-5572 FAX 047-469-2581



図—2 浄月潭ダム

水深は16mに達する。名勝区内には山が119個あり、浄月潭の周辺に集中している。海拔406.5mの南大頂子山は名勝区内で一番高い山である。100km²面積の人工林の植物景観は豊かである。強大なモンゴル高気圧の影響をうけて、冬は長く寒い。雪のある時期が180日を超え、雪質がよく、冰雪観光とスキーの理想的な場所である。

浄月潭風景名勝区には豊かな人文風景資源もある。完顔金代の墓地在石碑嶺陽坂山腰にある。石羊石虎山金代墓地は、浄月潭の南側の石羊石虎山にある。これらは、1981年に長春市の重点文物保護単位に指定された。

浄月潭風景名勝区の計画は、2001年から2020年であり、3期に分けて実施する。短期は2001年から2005年で、発展するための基礎を造る。中期は2006年から2010年で、国内一流の風景名勝区にする。長期は2011年から2020年で、国内外の有名な観光地にする。

5、近代土木遺産の利活用

日本人技術者佐野利器などによって計画された浄月潭ダムと関連施設は、貴重な近代土木遺産である。

①浄月潭の近代土木遺産

浄月潭には、浄月潭ダム、取水塔、余水吐などの近代土木遺産がある。

浄月潭ダムは、堤長550m、堤頂幅7mのアースダムである。ダムの下側には監査廊入り口があり、ドアは閉じられていた。浄月潭風景名勝区の安全対策として、ダム湖の近くの長さ300mの余水路とダム下流500m以内には洪水時の水流に影響する建築などをしてはいけない。堤体は定期的な診断がおこなわれている。ダムの下と正門入り口の間は“浄月広場”という親水公園になっている。

浄月潭取水塔は、当時長春唯一の円形屋根の建物だった。取水塔の正門にある現在の“浄月潭”文字は、中国副首相



図—3 余水吐

(1983～1993年)田紀雲の揮ごうによる。取水塔は観光客に開放していない。

余水吐は、ダム湖の左側にあり、余水吐の堤頂部は道路が整備され、観光用に利用されていた。余水吐には、鉄鎖上を歩いて余水路を横きる観光遊具があった。余水吐近くの余水路には、現在は使用禁止になっている鉄筋コンクリートアーチ橋が架かっていた。余水吐付近には、水泳施設と飲食店などの観光施設ができていた。

1995年8月、吉林省は浄月潭風景名勝区を核とした長春浄月潭観光経済開発区を設定した。浄月潭の近代土木遺産は、観光を中心としたまちづくりに利活用されている。

②給水関係の近代土木遺産

長春市内に現存している給水塔には、西広場給水塔と敷島給水塔の2つがある。

満鉄附属地の西広場に高さ30mの給水塔をつくって附属地に給水した。この西広場給水塔は鉄造(竣工年不明)で、当時は景観的なシンボルだった。現在は、放置され、給水塔の表面にはいろいろな広告板で囲まれている。

西広場給水塔の南側200mのところ鉄筋コンクリート製の敷島給水塔(1933年)がある。容量は1000m³で、高さは38.15m、最低水位は22.20m、水槽内径13mである。満鉄地方部工事課が設計、東洋株式会社が施工した。1933年6月12日に起工、半年足らずの11月3日に竣工した。現在は、長春鉄道水電段の水表検定室として活用されている。

6、おわりに

浄月潭の利活用は、廃ダムの利活用事例として参考になる。ダム湖周辺をレクリエーション地域として森林保全を図り、またこの地域を観光とまちづくりの核地域として位置づけている。

なお、中国側の研究グループは、中国吉林建築工程学院の幕畏先生をリーダーとしている。